

令和7年度

守山中学校 学校評価

教育目標 育てたい生徒像 教育課程に関する方針	<p>【教育目標】豊かでたくましい心身の育成と確かな学力の伸長に努め、21世紀に求められる智慧と人格をそなえたわが国および国際社会の進展に貢献できる人間を育成する</p> <p>【育てたい生徒像】協和・進取・叡智の校訓のもと、自分で考え自ら行動できる力と国際的な視野を備えた、持続可能な社会の創り手となるグローバルリーダーの育成をめざす</p> <p>【教育課程に関する方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個々に応じた質の高い授業、生徒が主体的に取り組む学校行事・部活動、大学・地域と連携した探究活動や海外との交流等、中高一貫教育の特性を生かした教育活動を行い、確かな学力と豊かで健やかな心身を育成するとともに、希望進路の実現を図る ○生徒一人ひとりを大切にし、誰もが輝く教育を進めるため、教員、生徒、保護者が一体となり「チーム守山」として、社会に開かれた教育活動を推進する
------------------------------------	---

領 域	重 点 評 価 項 目	中間評価(10月)		総合評価（3月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価
1 学校経営	◎生徒にとって魅力ある学校づくりのため教職員は意欲的に教育活動に取り組んでいる。	A			
	◎PTA活動や学校運営協議会等をとおして、保護者・地域等の意見を反映し、学校経営の改善に努めている。	B			
2 学習指導	◎ICTの活用等教材や教え方を工夫し、基礎基本の定着と探究的な学びの実現に努めている。	A			
	◎生徒が家庭学習の習慣を身に付け、意欲的・主体的に学びに取り組めるよう指導している。	B			
3 生徒指導	◎基本的な生活習慣の確立と、交通マナーの遵守等規範意識の高揚に努めている。	A			
	◎いじめ等の防止や支援を必要とする生徒対応のため、アンケートや面談の実施と相談体制の充実に努めている。	A			
4 進路指導	◎卒業後も見据え、個々の能力・資質の伸長につながる進路指導を系統的に行っている。	B			
	◎進路LHRや面談等を通じ適切な進路情報を提供し、一人ひとりの希望進路を保障する取組を行っている。	B			
5 特別活動等	◎文武両道をめざし、学習と部活動・特別活動等との両立が図れるよう努めている。	B			
	◎学園祭やLHR等を通じて、自ら考え、自ら行動できる力の育成を図り、自主活動の振興に努めている。	A			
6 学校図書館	◎生徒に必要な資料を提供し、誰もが利用できるよう学校図書館運営を行っている。	B			
	◎図書館だよりの発行等を通じて、読書の面白さ、大切さに気づかせる教育をしている。	B			
7 保健・安全指導	◎保健だよりの発行等を通じて、生徒の健康管理と病気の予防に努めている。	A			
	◎保護者の協力を得るために、保護者に情報を伝え、連携を図っている。	B			
8 人権教育	◎人権LHR等を通じて、多様な価値観と互いの人権を尊重し協力しあうよう、人権意識の向上に努めている。	A			
	◎学校行事等を通じて、思いやりの心を育みよりよい仲間づくりのための取組を行っている。	A			
9 環境教育	◎様々な教育活動を通じて、生徒にSDGsや環境について考えさせる指導を行っている。	B			
	◎日常の清掃活動等を通じて、環境美化とゴミの少量化や分別等の意識の向上を図っている。	B			
10 事務・管理	◎教育環境を良好に保つため、施設・設備の安全点検と更新・整備に努めている。	B			
	◎教職員は、個人情報の管理を適切に行うとともに、保護者等の来校や電話に丁寧に対応している。	A			
11 その他 学校の取組	◎生徒や保護者から信頼され、満足される学校づくりに努めている。	A			
	◎ホームページ等を活用し、教育活動や生徒の学校生活等について情報発信に努めている。	B			

(注) ・評価表の見方： 6月 学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表

10月 中間評価（自己評価）の公表（8月までの教育活動に対する中間評価）A B C Dの4段階評価で示す。

3月 総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）A B C Dの4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、

あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。

ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。